

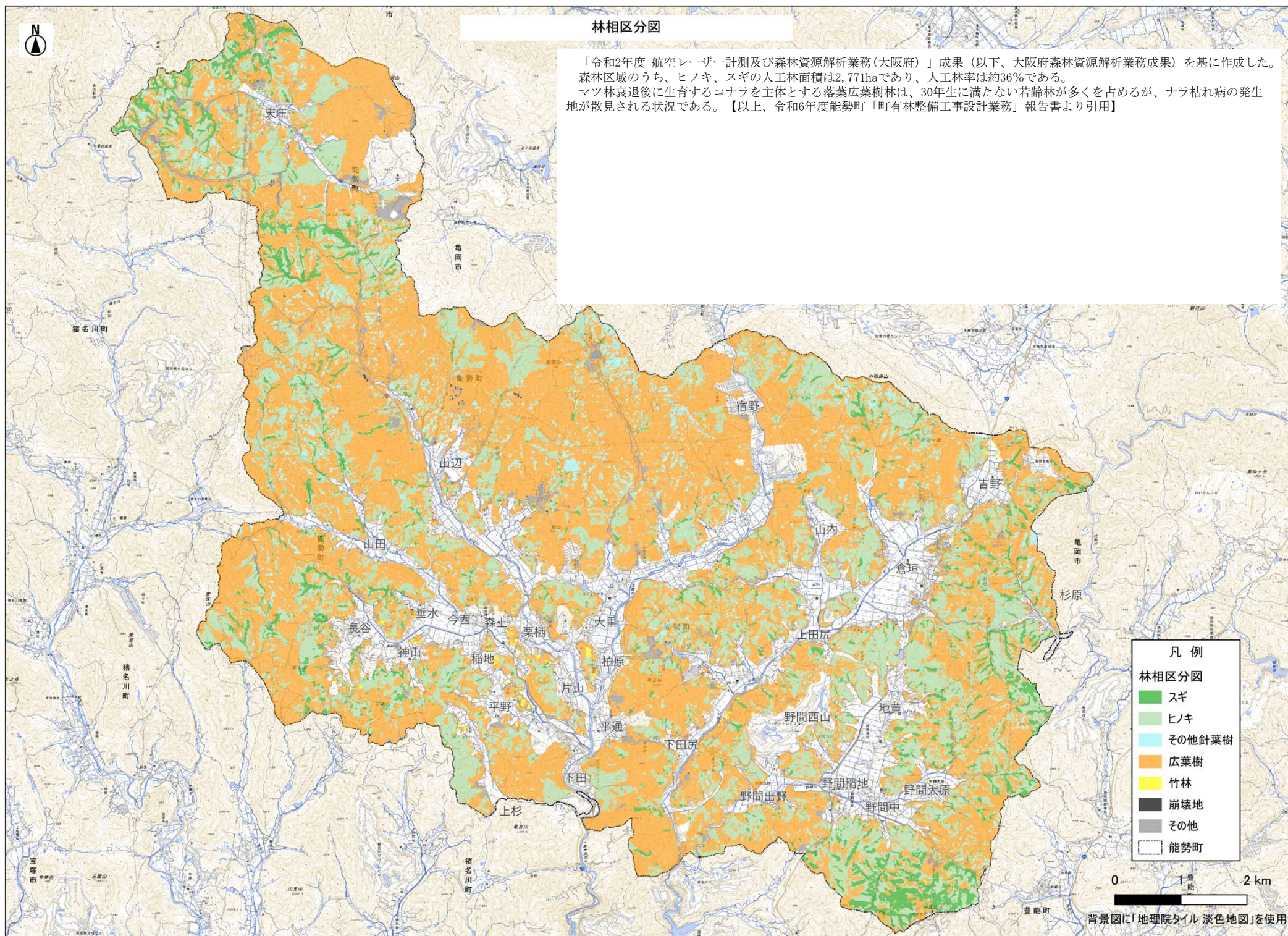
資料編目次

【林況・植生調査】

林相区分図	1
人工林立木密度分布図	2
推定蓄積分布図	3
収量比数分布図	4
過去の森林整備実績図	5
森林経営計画位置図	6
シカ生息状況推定図	7
森林に隣接している町道管理道路図	8
クヌギ林の植生分布図	9
マツタケ山の入札規制位置図	10

【法令・規制等調査】

自然環境保全のための法指定位置図	11
公有林位置図	12
山地災害危険地区位置図	13
過去の森林整備実績図	14
森林防災区分図	15
再生可能エネルギー条例による禁止区域位置図	16

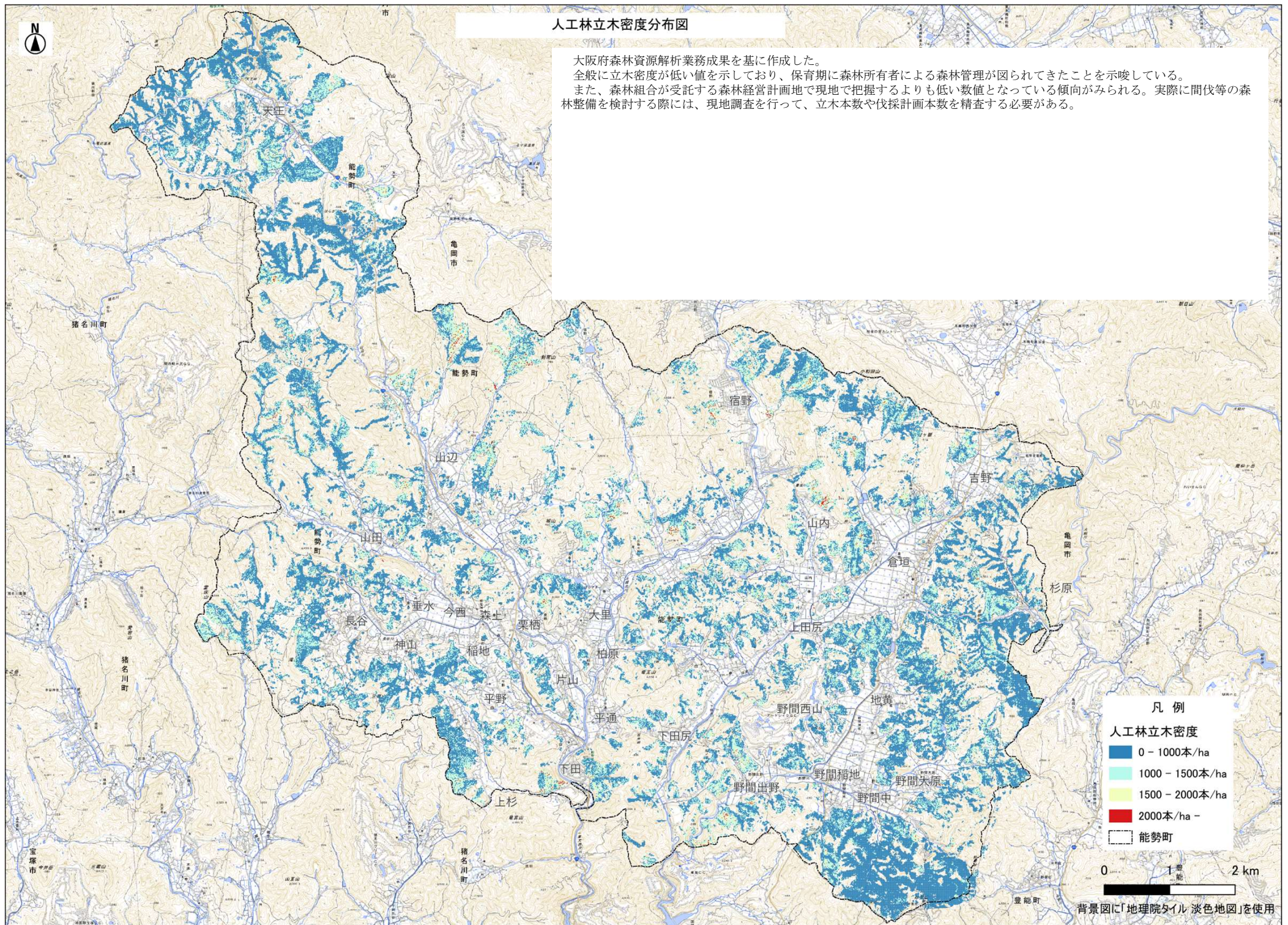


林相区分図

「令和2年度 航空レーザー計測及び森林資源解析業務(大阪府)」成果(以下、大阪府森林資源解析業務成果)を基に作成した。森林区域のうち、ヒノキ、スギの人工林面積は2,771haであり、人工林率は約36%である。マツ林衰退後に生育するコナラを主体とする落葉広葉樹林は、30年生に満たない若齢林が多くを占めるが、ナラ枯れ病の発生地が散見される状況である。【以上、令和6年度能勢町「町有林整備工事設計業務」報告書より引用】

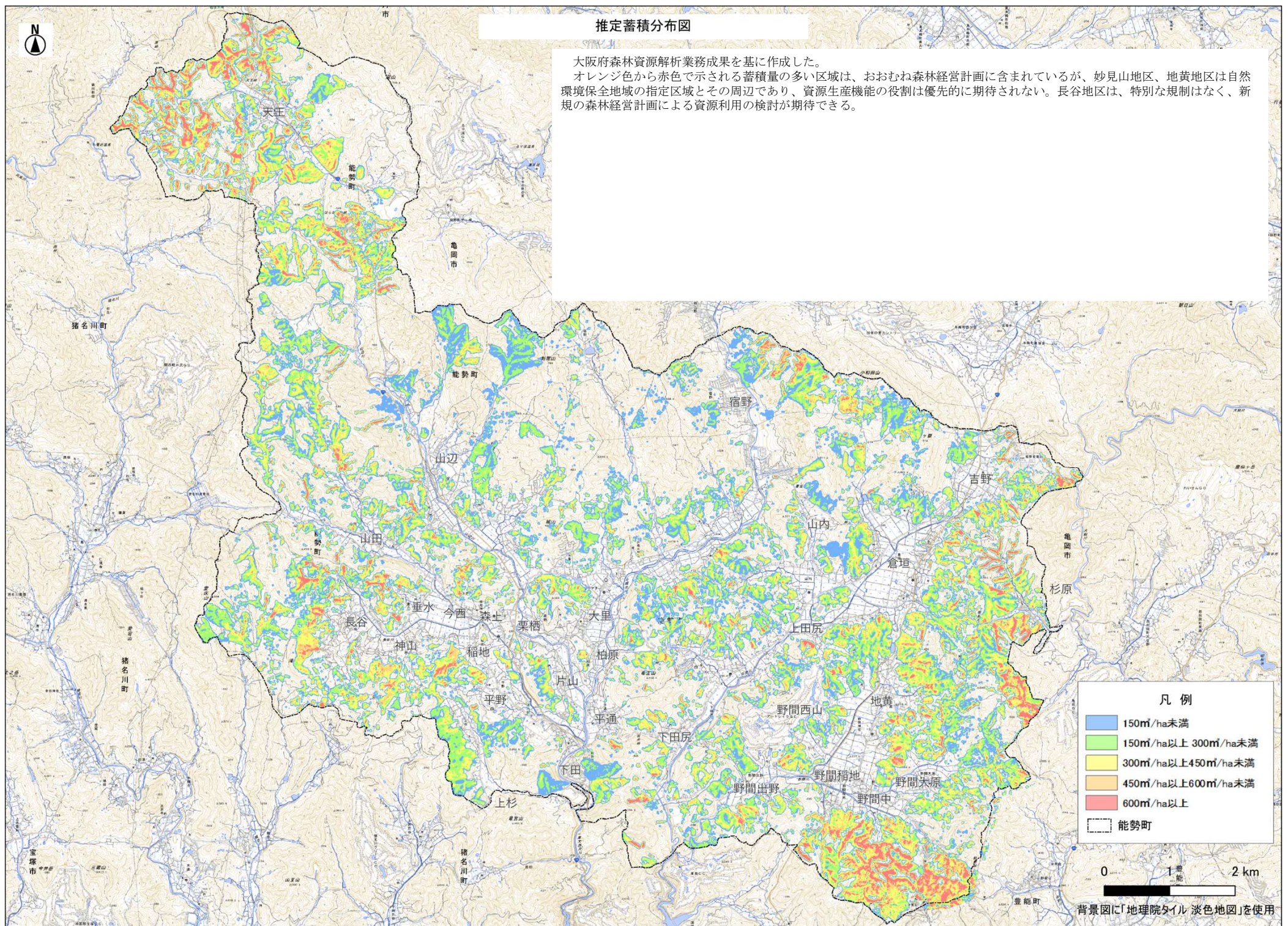
人工林立木密度分布図

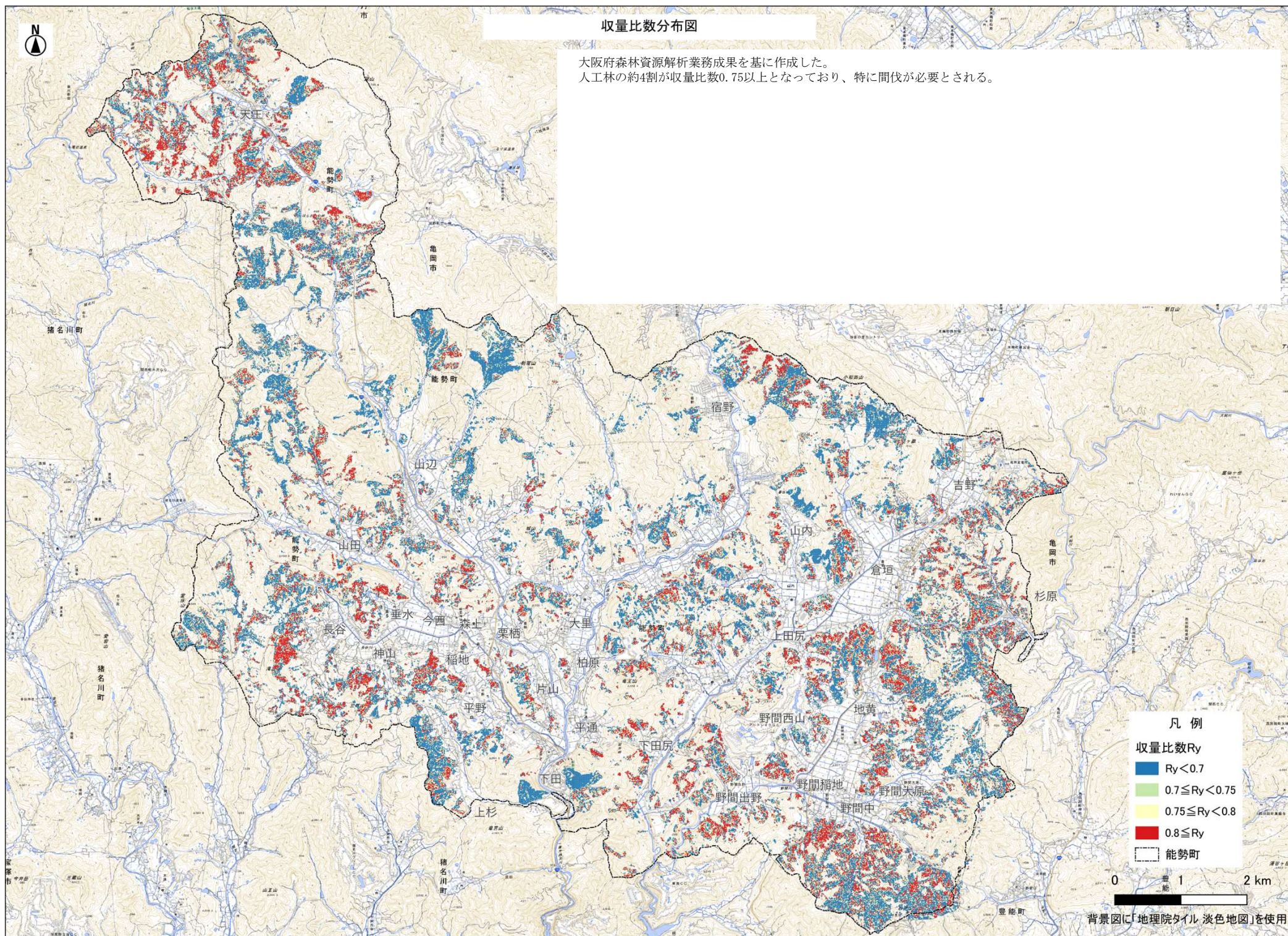
大阪府森林資源解析業務成果を基に作成した。
全般に立木密度が低い値を示しており、保育期に森林所有者による森林管理が図られてきたことを示唆している。
また、森林組合が受託する森林経営計画地で現地で把握するよりも低い数値となっている傾向がみられる。実際に間伐等の森林整備を検討する際には、現地調査を行って、立木本数や伐採計画本数を精査する必要がある。



推定蓄積分布図

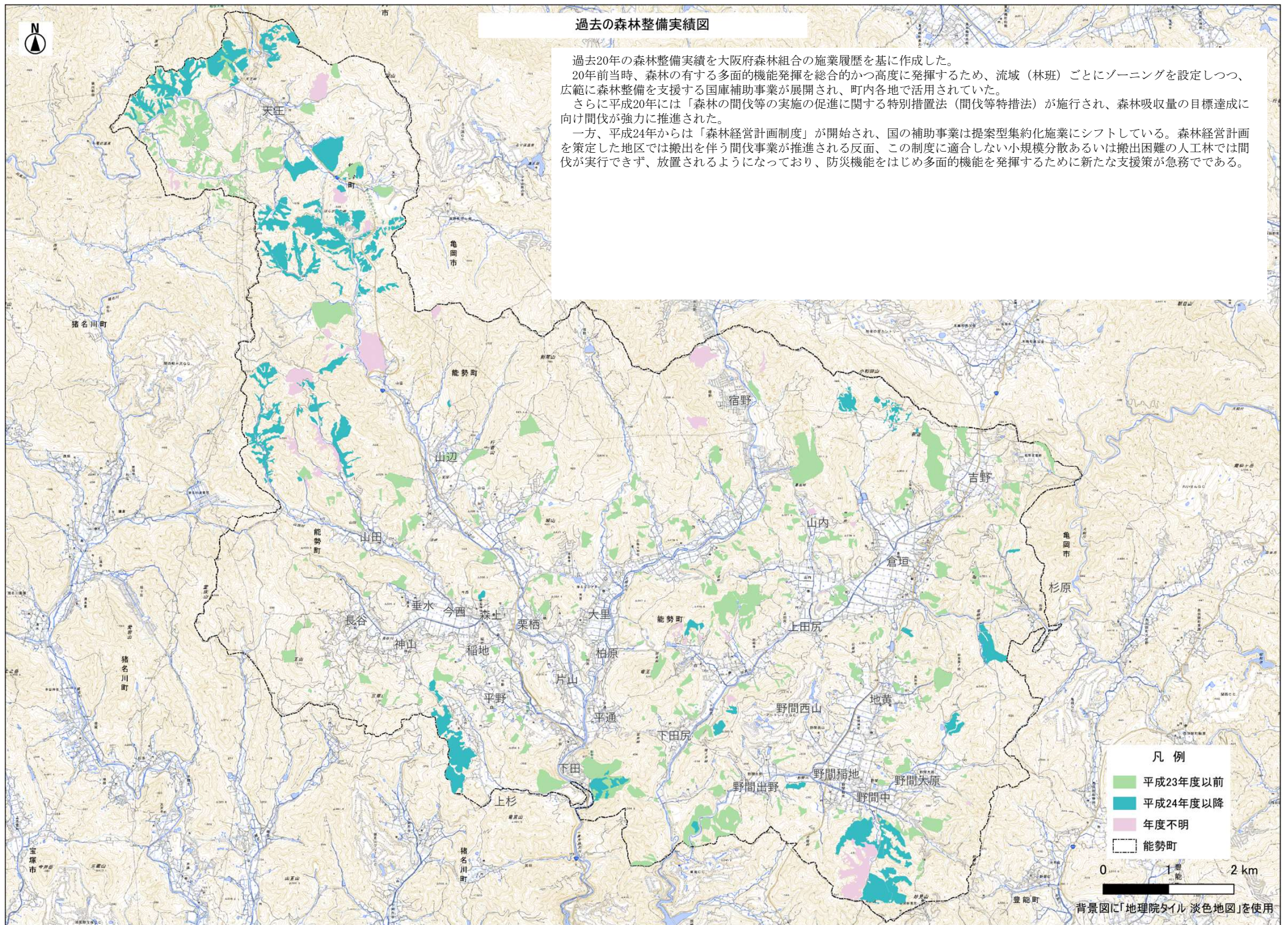
大阪府森林資源解析業務成果を基に作成した。
オレンジ色から赤色で示される蓄積量の多い区域は、おおむね森林経営計画に含まれているが、妙見山地区、地黄地区は自然環境保全地域の指定区域とその周辺であり、資源生産機能の役割は優先的に期待されない。長谷地区は、特別な規制はなく、新規の森林経営計画による資源利用の検討が期待できる。

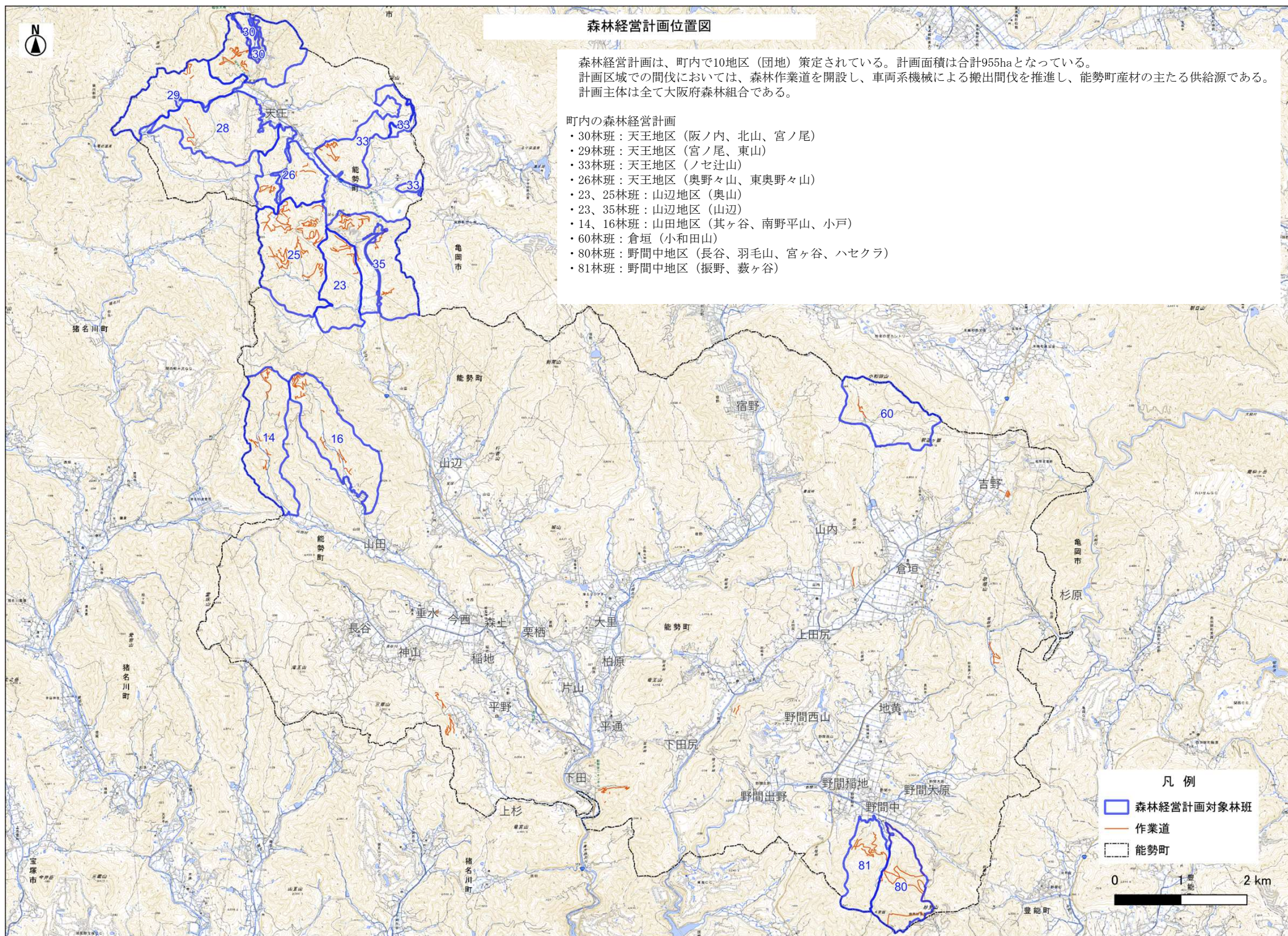




過去の森林整備実績図

過去20年の森林整備実績を大阪府森林組合の施業履歴を基に作成した。
20年前当時、森林の有する多面的機能発揮を総合的かつ高度に発揮するため、流域（林班）ごとにゾーニングを設定しつつ、広範に森林整備を支援する国庫補助事業が展開され、町内各地で活用されていた。
さらに平成20年には「森林の間伐等の実施の促進に関する特別措置法（間伐等特措法）」が施行され、森林吸収量の目標達成に向け間伐が強力に推進された。
一方、平成24年からは「森林経営計画制度」が開始され、国の補助事業は提案型集約化施業にシフトしている。森林経営計画を策定した地区では搬出を伴う間伐事業が推進される反面、この制度に適合しない小規模分散あるいは搬出困難の人工林では間伐が実行できず、放置されるようになっており、防災機能をはじめ多面的機能を発揮するために新たな支援策が急務である。





シカ生息状況推定図

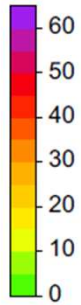
「シカ・イノシシ生息状況のモニタリング調査」（令和4年7月19日（地独）大阪府立 環境農林水産総合研究所シカ・イノシシ保護管理検討会資料）より引用した。町内30地点にて糞塊除去法により生息密度を推定している。

町内でのシカによる林業被害は、平成初期から植林したヒノキ等の苗木の食害や成木への剥皮害が現れ、所有者の林業意欲を大きく減退させている。また周辺の農地でも農業被害が深刻化し、地域農林業の大きな問題となっている。

森林での被害は林業だけの問題ではない。植林した樹木だけでなく、林内の下層植物を食べ荒らすため、表土の流出や森林土壌の流亡といった問題を引き起こしている。こうした問題は、森林の防災機能や生物多様性機能の低下をもたらす。

森林環境や林業経営を確保する獣害対策としては、シカの侵入防護柵の設置や植林木のガード等の対策が必要だが、設置費用がかかるうえに維持管理を要する。抜本的な解決は難しいが、保全すべき森林・集落を設定し、その周囲にバッファゾーンを設けて、被害を軽減する手法があり、他県でも森林関係事業として取り組まれている。

シカ生息密度
(頭/km²)

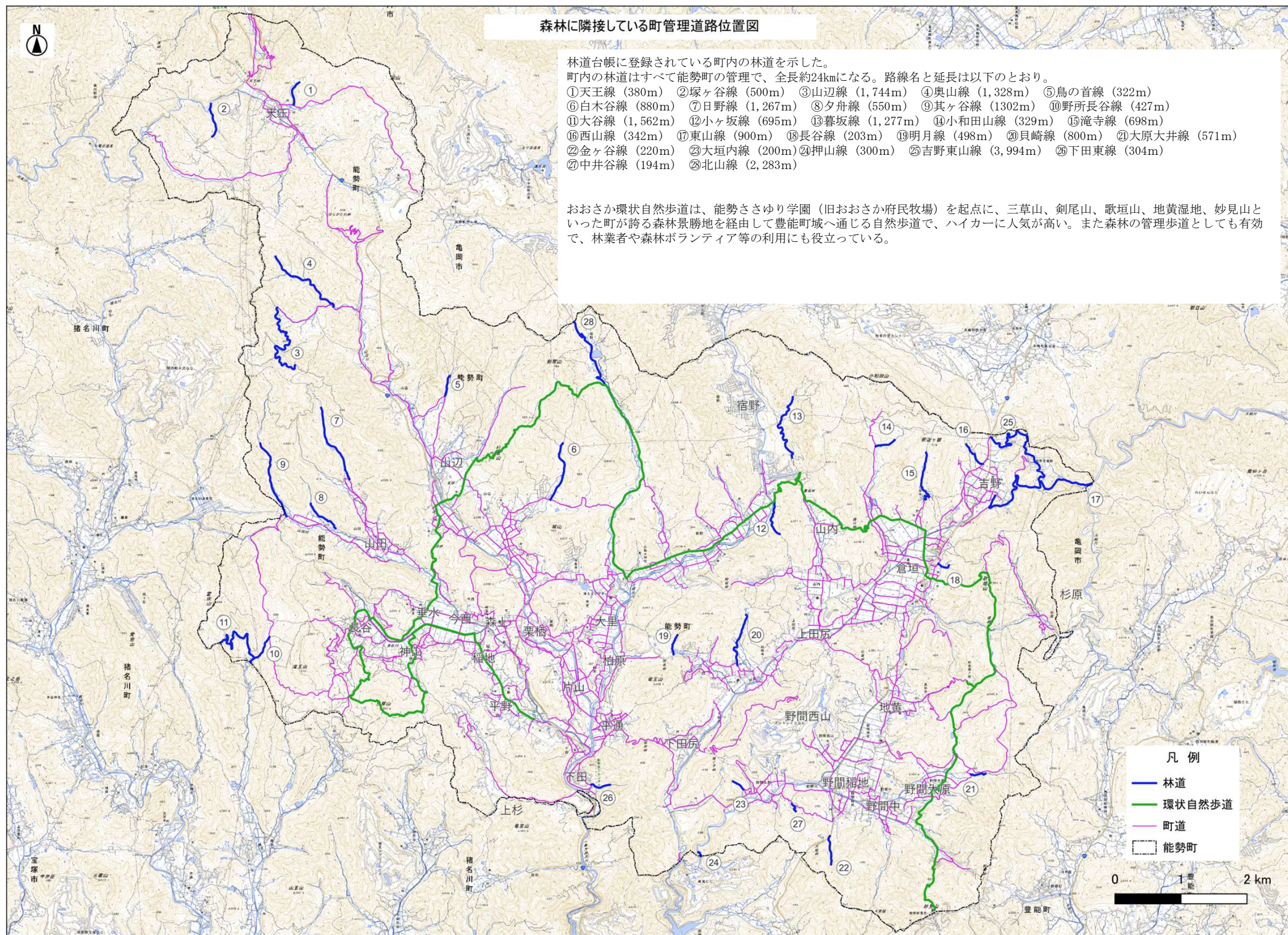


2020

2022

2024





森林に隣接している町管理道路位置図

林道台帳に登録されている町内の林道を示した。

町内の林道はすべて能勢町の管理で、全長約24kmになる。路線名と延長は以下のとおり。

- ①天王線 (380m) ②塚ヶ谷線 (500m) ③山辺線 (1,744m) ④奥山線 (1,328m) ⑤鳥の首線 (322m)
⑥白木谷線 (880m) ⑦日野線 (1,267m) ⑧夕舟線 (550m) ⑨其ヶ谷線 (1302m) ⑩野所長谷線 (427m)
⑪大谷線 (1,562m) ⑫小ヶ坂線 (695m) ⑬暮坂線 (1,277m) ⑭小和田山線 (329m) ⑮滝寺線 (698m)
⑯西山線 (342m) ⑰東山線 (900m) ⑱長谷線 (203m) ⑲明月線 (498m) ⑳貝崎線 (800m) ㉑大原大井線 (571m)
㉒金ヶ谷線 (220m) ㉓大垣内線 (200m) ㉔押山線 (300m) ㉕吉野東山線 (3,994m) ㉖下田東線 (304m)
㉗中井谷線 (194m) ㉘北山線 (2,283m)

おおさか環状自然歩道は、能勢ささゆり学園（旧おおさか府民牧場）を起点に、三草山、剣尾山、歌垣山、地黄湿地、妙見山といった町が誇る森林景勝地を経由して豊能町域へ通じる自然歩道で、ハイカーに人気が高い。また森林の管理歩道としても有効で、林業者や森林ボランティア等の利用にも役立っている。

凡 例

- 林道
- 環状自然歩道
- 町道
- 能勢町

0 1 2 km

クヌギ林の植生分布図(台場クヌギ林所在地分布図)

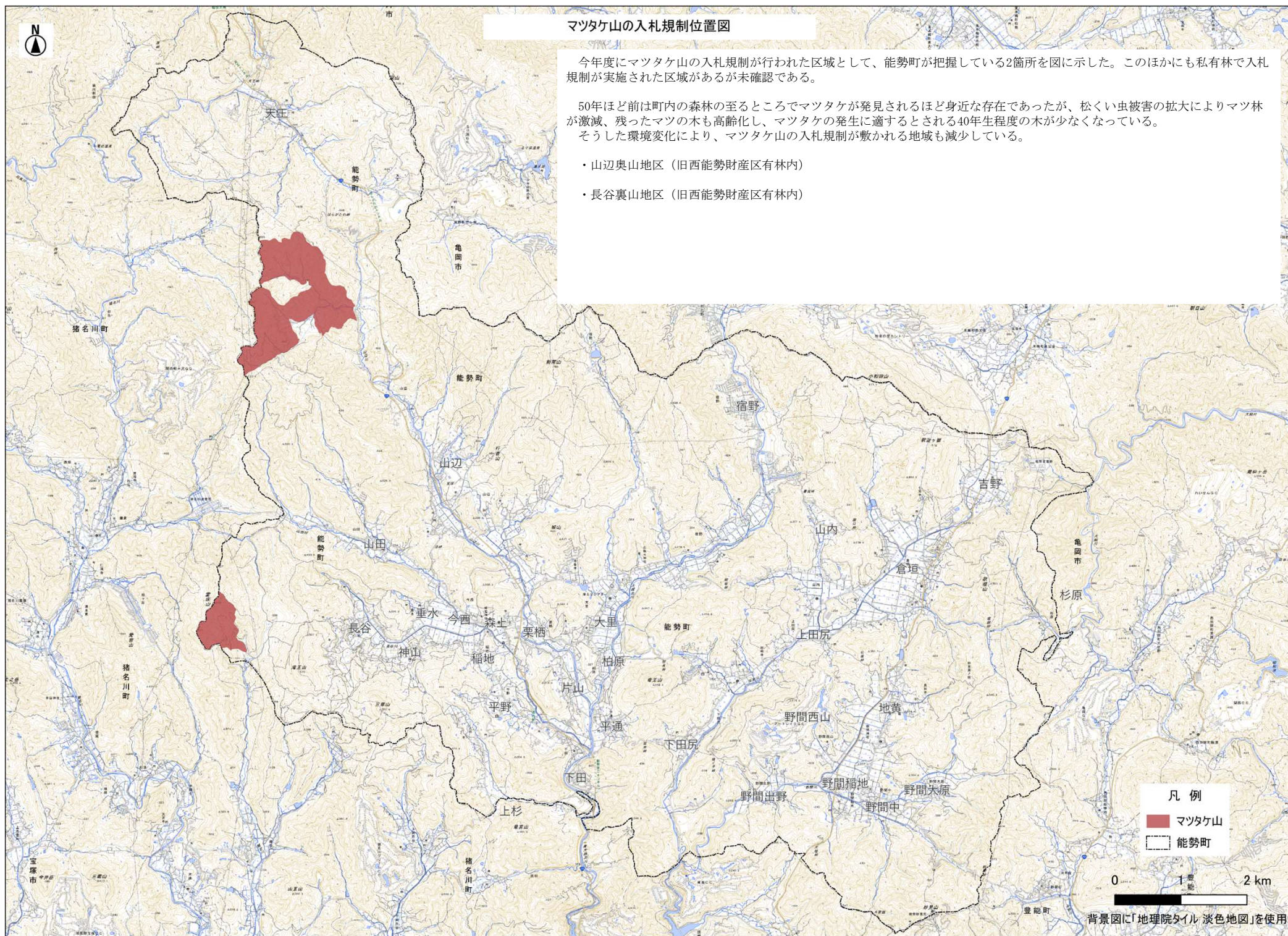
能勢町では古くから里山林において有効に活用されてきた資源の一つとしてクヌギがある。町内の里山林を構成する代表的な樹木であるクヌギは、ブナ科コナラ属に含まれる落葉高木で、樹高が15m、幹径は60cm以上の大木に成長するものもある。

隣接する兵庫県においても、猪名川上流域の里山林に着目した情報発信や地域住民と連携した保全活動などが進められる中で、この地域に残る台場クヌギの希少性や歴史・文化的価値が大きく評価されている。

下図は、2021年に町内の台場クヌギ林の分布状況調査を実施された大阪公立大学大学院農学研究科 上田萌子准教授によるものであり、大阪府森林組合が2025年3月に発行した「クヌギ林育成・管理マニュアル（公益信託農林中金森林再生基金助成金事業により制作）」より引用したものである。



背景図に「地理院タイル 淡色地図」を使用



自然環境保全のための法指定位置図

自然環境保全のための法令・条例に指定される地区とその概要は以下のとおりである。

大阪府立北摂自然公園特別地域

- ・天王：「深山」の稜線から中腹部に広がるササ草地を中心とした自然景観
- ・山辺：山辺川源流部に広がる自然景観とアカマツ・コナラ林の里山景観
- ・剣尾山：稜線部に広がるアカマツ・コナラ中心とした里山景観
- ・小和田山：稜線部と集落周辺に広がるアカマツ・コナラ中心とした里山景観
- ・地黄・歌垣山：潜在自然植生である常緑広葉樹林と健全なアカマツ林を中心とした森林景観と、名山「歌垣山」、妙見奥ノ院周辺の歴史・文化的景観の保護

大阪府立北摂自然公園普通地域

- ・山辺（2ha）、剣尾山（35ha）、地黄・歌垣山（1ha）

自然環境保全地域特別地区

- ・妙見山：山頂付近のブナ林や貴重な植物相

自然環境保全地域

- ・妙見山：ブナ・アカガシ林、多種の鳥類・両生類・昆虫が確認され、豊かな生態系を形成している

緑地環境保全地域

- ・三草山：ナラガシワを含む落葉広葉樹の二次林。希少な昆虫の生息を確認
- ・地黄湿地：低山地帯谷部の湧水湿地とその周辺。自然度の高い湿地で、大きな湿地と多様な動植物種は府内でも稀

保安林（2,494haあり、町内森林の約33%。水源かん養保安林、土砂流出防備保安林、保健保安林、風致保安林がある）

凡例

- 大阪府立北摂自然公園 特別地域
- 大阪府立北摂自然公園 普通地域
- 自然環境保全地域特別地区
- 自然環境保全地域
- 大阪府緑地環境保全地域
- 能勢町保安林
- 近郊緑地保全区域
- 鳥獣保護区
- 能勢町

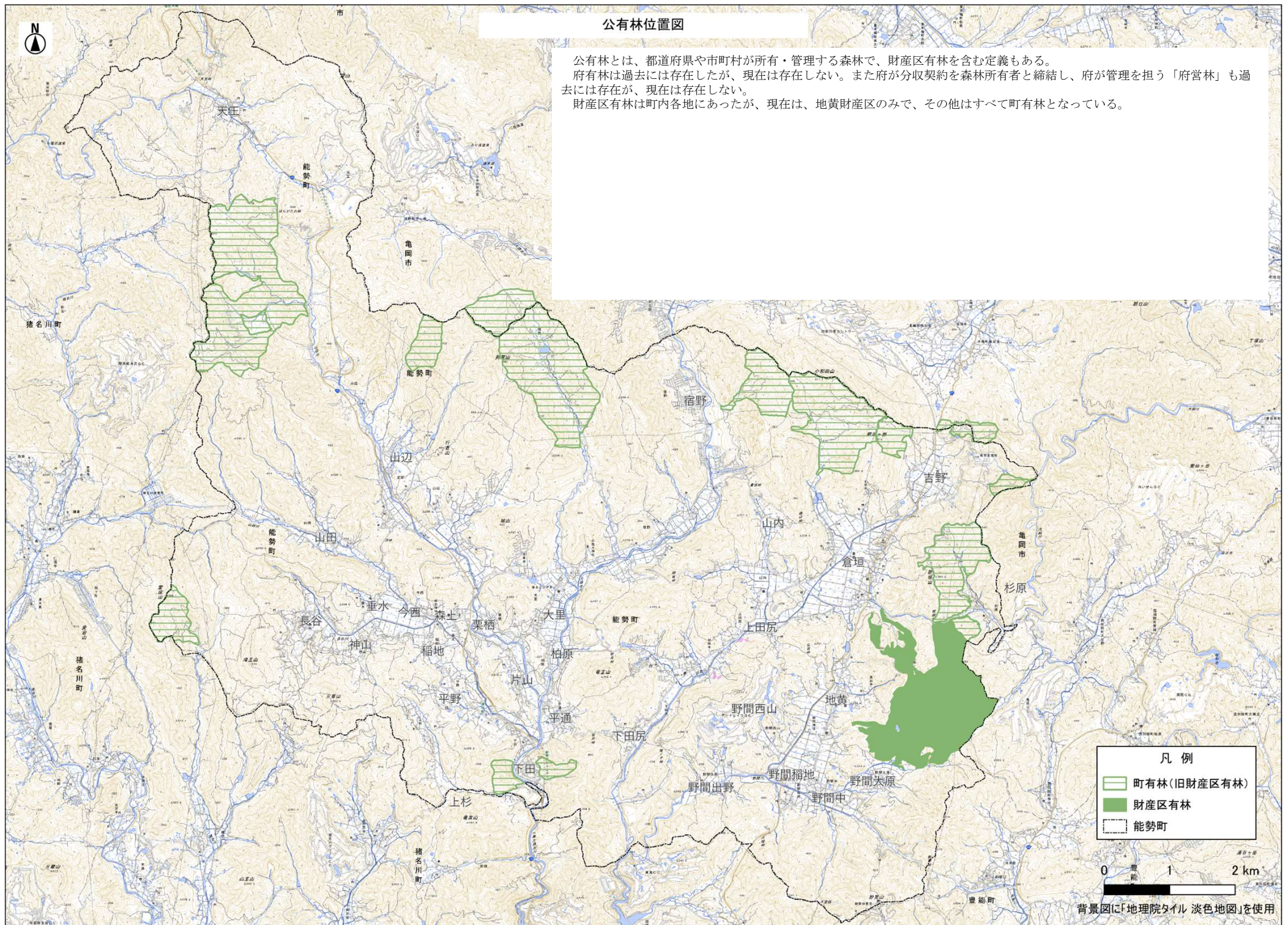
データ種別	出典	データ作成年度	データ基準年月日
自然公園地域	国土数値情報 自然公園地域（製品仕様書第4.1版）	平成27年度	-
自然環境保全地域	国土数値情報 自然保全地域（製品仕様書第3.2版）	平成27年度	-
大阪府緑地環境保全地域	大阪府緑地環境保全地域保全計画書（平成20年2月）を基に図化	-	-
近畿圏計画区域	国土数値情報 三大都市圏計画区域（製品仕様書第2.1版）	-	平成15年10月1日時点
鳥獣保護区	国土数値情報 鳥獣保護区（製品仕様書第2.2版）	平成27年度	-

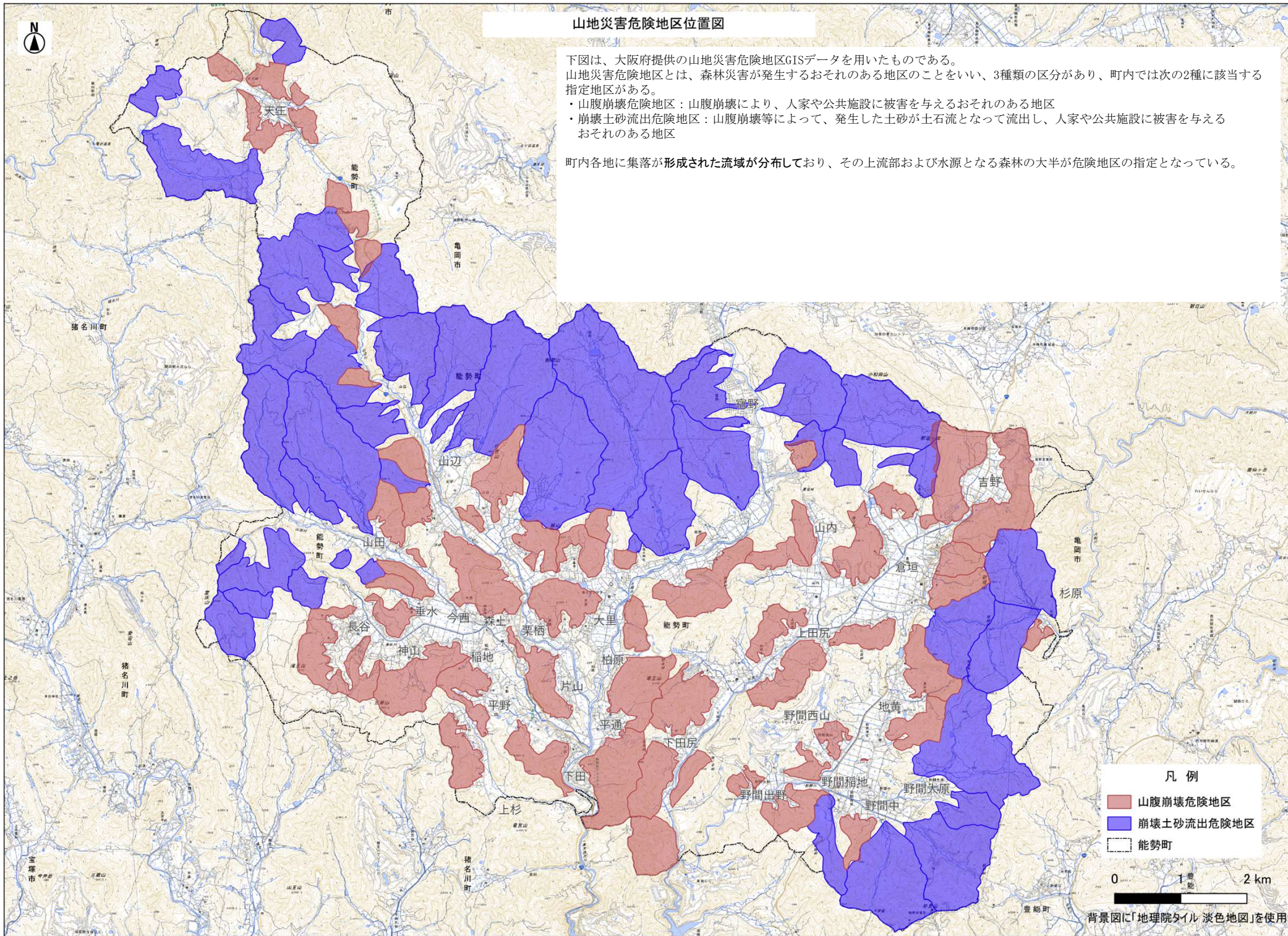
0 1 2 km

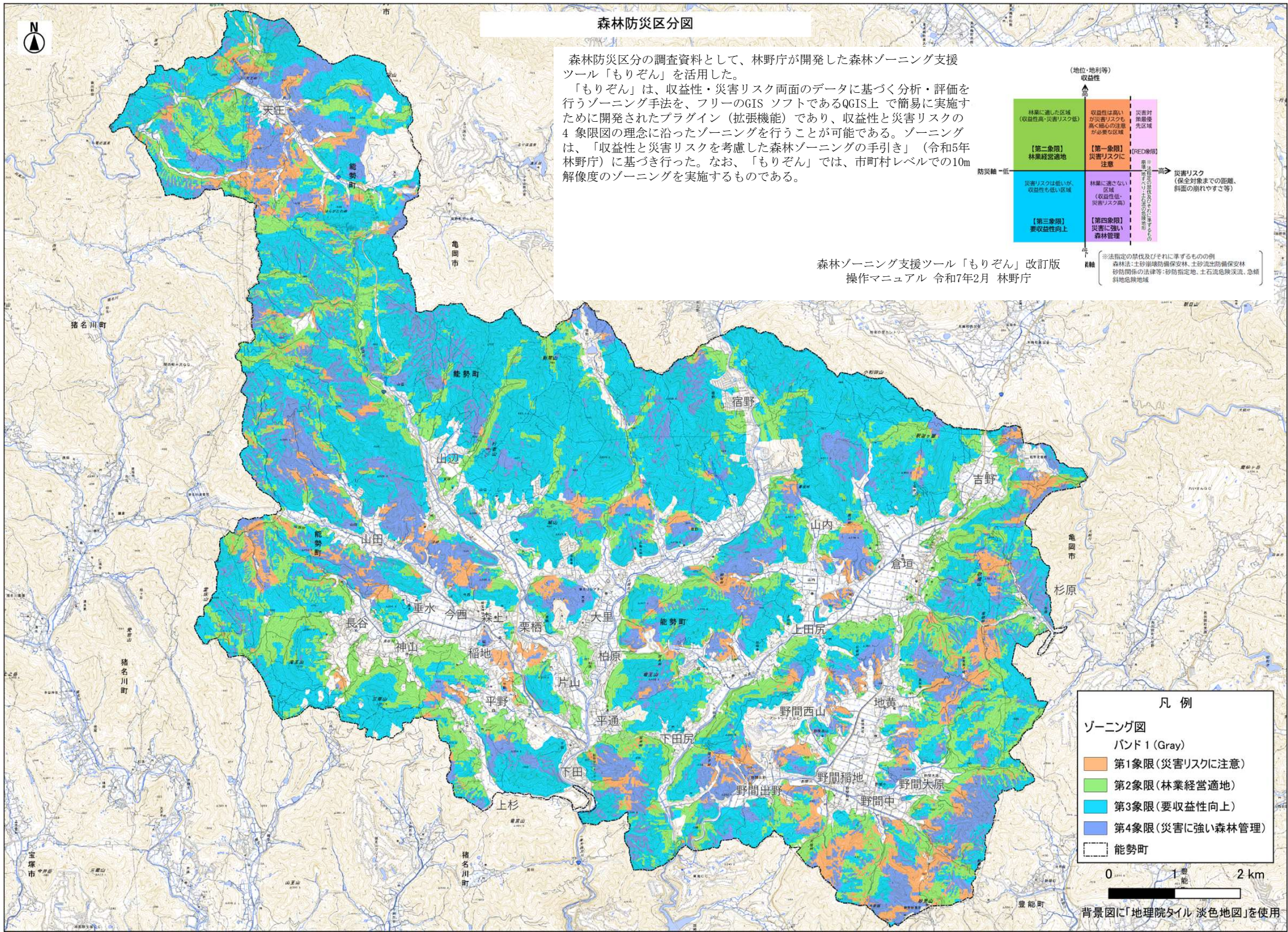
背景図に「地理院タイル 淡色地図」を使用

公有林位置図

公有林とは、都道府県や市町村が所有・管理する森林で、財産区有林を含む定義もある。
府有林は過去には存在したが、現在は存在しない。また府が分収契約を森林所有者と締結し、府が管理を担う「府営林」も過去には存在が、現在は存在しない。
財産区有林は町内各地にあったが、現在は、地黄財産区のみで、その他はすべて町有林となっている。

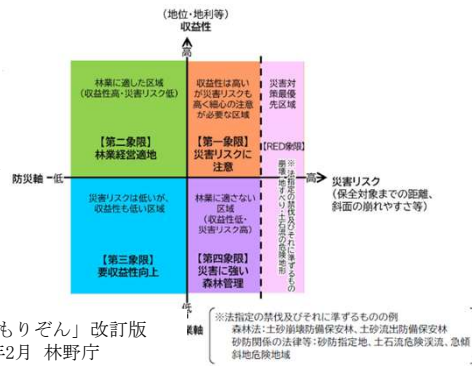






森林防災区分図

森林防災区分の調査資料として、林野庁が開発した森林ゾーニング支援ツール「もりぞん」を活用した。
「もりぞん」は、収益性・災害リスク両面のデータに基づく分析・評価を行うゾーニング手法を、フリーのGISソフトであるQGIS上で簡単に実施するために開発されたプラグイン（拡張機能）であり、収益性と災害リスクの4象限図の理念に沿ったゾーニングを行うことが可能である。ゾーニングは、「収益性と災害リスクを考慮した森林ゾーニングの手引き」（令和5年林野庁）に基づき行った。なお、「もりぞん」では、市町村レベルでの10m解像度のゾーニングを実施するものである。



森林ゾーニング支援ツール「もりぞん」改訂版
操作マニュアル 令和7年2月 林野庁

- 凡 例
- ゾーニング図
- バンド1 (Gray)
 - 第1象限 (災害リスクに注意)
 - 第2象限 (林業経営適地)
 - 第3象限 (要収益性向上)
 - 第4象限 (災害に強い森林管理)
 - 能勢町

0 1 2 km

背景図に「地理院タイル 淡色地図」を使用

再生可能エネルギー条例による禁止区域位置図

能勢町再生可能エネルギーの導入に係るゾーニング計画における「太陽光発電のゾーニングマップ」データを基に作成した。

太陽光発電 禁止区域の設定については、森林に関する以下の法令・条例による指定区域が対象となっている。

- ・自然環境保全地域 ・自然公園特別地域 ・自然公園区域 ・緑地環境保全地域 ・自然環境保全地域
- ・土砂災害特別警戒区域 ・地すべり防止区域 ・鳥獣保護区 ・特定植物群落

太陽光発電 許可申請区域の設定については、森林に関する以下の法令・条例による指定区域が対象となっている。

- ・砂防指定地 ・保安林 ・地域森林計画対象民有林 ・近郊緑地保全区域 ・山地災害危険地区 ・土砂災害警戒区域
- ・山地災害危険箇所

